

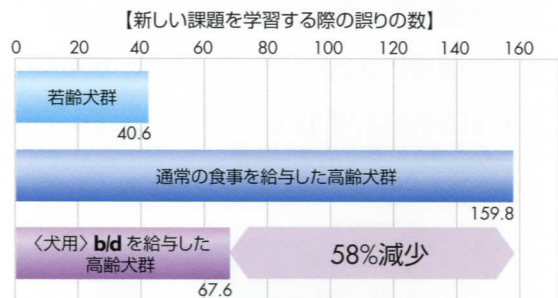
b/d 脳の加齢による 行動の変化、認知障害



- ダメージを受けやすい細胞膜の構成成分であるオメガ-3脂肪酸を強化
- 抗酸化作用がある果実・野菜由来のカロテノイドとポリフェノールを配合し、健康維持に配慮
- 腎臓および心臓の機能が低下傾向にある高齢犬の健康維持に配慮して、蛋白質、ナトリウム、リンを低減

食事管理で、学習能力がアップ?

ヒルズのプリスクリプション・ダイエット〈犬用〉b/dによる食事管理が高齢犬の学習能力の改善に役立つことが明らかになっています。24頭の高齢犬と16頭の若齢犬を使用し、新しい課題を学習する際の誤りの数を評価したところ、b/dを与えられていた高齢犬は通常の食事を与えられていた犬に比べ、学習する際の誤りが少ないことが証明されています。



Milgram NW, Head E, Cotman CW, Muggenburg B, Zicker SC. Age dependent cognitive dysfunction in canines : Dietary intervention. In: Overall KL, Mills DS, Heath SE, Horwitz D [editors]. Proceedings of the Third International Congress on Veterinary Behavioral Medicine. Universities Federation for Animal Welfare, Wheathampstead, UK, pp 53-57:2001

食事管理のポイント

- 抗酸化成分が強化されているフードを与えましょう
ビタミンE、ビタミンC、ベータカロテンは酸化によるダメージから細胞を守り、本来の免疫力の維持を助けます。
- オメガ-3脂肪酸を多く含むフードを与えましょう
DHA(ドコサヘキサエン酸)とEPA(エイコサペンタエン酸)は脳神経細胞膜の保護に役立ちます。
- カロテノイド、ポリフェノールを多く含むフードを与えましょう
カロテノイドやポリフェノールは、果物や野菜に多く含まれ、フリーラジカル(活性酸素)を不活化し、細胞のダメージの軽減に役立ちます。

Hill's ヒルズのプリスクリプション・ダイエット
犬の脳の加齢と行動変化管理用フード

b/d.

※獣医師の指示にしたがって与えてください。

b/d.

脳の加齢による行動の変化、認知障害



〈犬用〉ドライ 3kg, 7.5kg

病院名



販売元
日本ヒルズ・コルゲート株式会社
〒135-0016 東京都江東区東陽3-7-13



販売総代理店
大日本住友製薬株式会社
〒553-0001 大阪市福島区海老江1-5-51

愛犬愛猫に関する情報 ヒルズホームページ <http://www.hills.co.jp>

※製品のデザイン・重量などは変更することがあります。

2008.06



犬の脳の加齢と 行動変化のおはなし



脳の加齢と行動変化とは

加齢にともなう行動の変化は、その進行の程度が個々により異なります。加齢にともなう脳へのダメージは、さまざまな機能の低下をもたらすといわれています。しかし多くの場合、その行動の変化は見過ごされがちです。初期の段階で兆候をみつけて対処することができれば行動の異常が軽減され、その進行を遅らせることができる可能性があります。明らかな行動の異常がみられるのは症状が進んでからです。

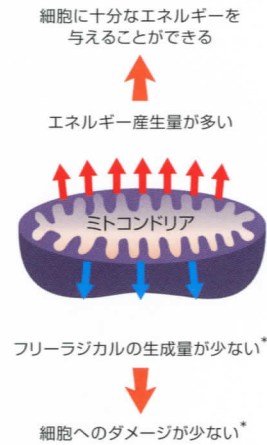


※定期的に獣医師の診察をお受けください。

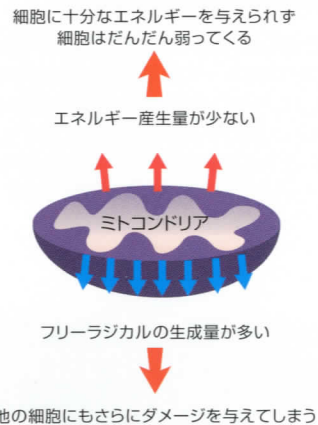
病気のしくみ

老化とともに多くの病気はフリーラジカル（活性酸素）と呼ばれる不安定な酸素分子が関与していると考えられています。フリーラジカルとは、細胞のミトコンドリアでエネルギーがつくられると同時に生成される副産物です。多くのフリーラジカルは体内で無害な形に処理されますが、数パーセントはそのまま残り、細胞にダメージを与えます。そのダメージが長期間かけて蓄積された結果が老化として現れてきます。フリーラジカルによるダメージは脳の機能を低下させ、行動の変化を引き起こします。

正常なミトコンドリア



老化したミトコンドリア



* 少ない量のフリーラジカルは本来体に備わっている抗酸化機能で無害な形に処理される

認知障害の実態

脳の加齢による行動変化や認知障害について、日本での実態が次のとおり報告されています。

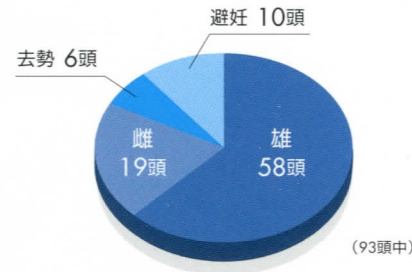
脳の加齢による行動変化や認知障害の実態

発症の年齢

13歳くらいから発症例が出はじめ、15～16歳で発症数が非常に高くなる傾向があります。

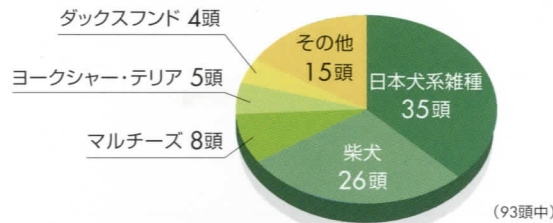
性別の分布

雄に多く見られる傾向があります。



犬種の分布

日本犬系に多くみられる傾向があります。

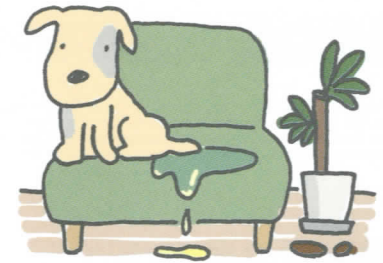


内野富弥 JVM Vol.54 No.7, 2001 より

！ こんな症状が出たら要注意

日ごろから愛犬の行動をチェックして、以下のような症状が見つかったら、早めに動物病院にご相談ください。

- 家の中で排便・排尿し、汚してしまう
- 散歩に行きたがらなくなった
- 家族を喜んで迎えなくなった
- 注意を引こうとしたり、すねたりしなくなった
- 家族や場所がわからなくなったようだ
- 言葉をかけても反応しなくなった
- 日中よく寝ていて、夜中に寝なくなった
- 家の中や庭などで迷うようになってきた
- 歩き回っていたり、歩き方が遅くなった
- 宙や壁をじっと見つめていることがある
- キョロキョロ、そわそわするなど、急に不安なしぐさをすることがある



🏠 ホームケア

- 高齢の愛犬の健康管理では、定期的な健康診断が重要です
- 治療や食事など獣医師の指示を守りましょう
- 毎日の生活の中で、愛犬に小さな変化がみられたら、すぐにかかりつけの獣医師に相談しましょう